

1 派遣期日 平成23年10月27日（木）

2 研修先 学校名 千葉県 習志野市立大久保東小学校
所在地 千葉県習志野市大久保2-12-1
<http://www.nkc.city.narashino.chiba.jp/daitou/>

3 研修内容

第31回 国語科公開研究会 理論的に思考し表現する力を育む国語科学習
一言語活動の場で話型を豊かに活用することを通してー

（1）公開授業参観

○第3学年 説明文

単元名 考えよう世界の家の不思議 ～「世界の家めぐり」ブックを作ろう～

「世界の家めぐり」ブックを作成するという言語活動が学習の大きな課題となっていた。それに向けて、説明文の読解をし、その中で説明するときの話型を学び、自分の表現に生かしていくという学習が展開されていた。全11時間扱いである。私が参観したのは、説明文の読解をしている5/11の時間と、学んだ話型を生かして文章で表す練習をしている6/11の時間、そして作成した作文をグループで読み合う10/11の時間の3時間である。単元の各段階での学習活動がよくわかり、どんな段階を経て学習過程がすすんでいったのかが明確だった。

読解では三つの観点にそって読み進めるとともに、ノートに書くときに因果関係を示す接続詞「だから、ので、ため」を使った話型を使う練習をしていた。

作文のまとめ方も教科書のページに準じて、児童が取り組みやすい工夫がなされていた。また、ブック作成のためのブックリストも作成してあって、たいへん参考になった。

（2）全体会

全体会ではこれまでの31年間の研究の経緯や実践についての説明があった。県の学力テストでは県平均から6点も高いそうで、普段の指導でも、一斉授業の確かな指導力の向上に主眼をおき、特に発問、板書、ノート指導に力を入れて取り組んでいるとのことだった。特別な指導やはやりの指導ではない、基本的な学習指導や学習習慣が大切だと改めて痛感した。

（3）分科会（3年生）

話型を活用して読み取ったり、話型を使って書く練習をしたり、事前の学習がすばらしかったことがブック作りにつながっているという感想が出た。また、実際のブック作りについて、なかなか書けない子の指導をどうしたのか、どうしたらいいのか話し合われた。全員が完成して、自信を持って、読み合う活動へとつなげることが重要だと感じた。また、世界の家調べをする際の図書について、ブックリストを元に使いやすかったものや本の特長について説明があった。

調べたことを自分なりの言葉に置き換えてブックにする際には、丸写しではよくないので、ここで丁寧な指導が必要だと思った。とくに、調べたことを要約したり、自分のわかりやすい言葉に書き換えたり、また最後に必ず感想を書き加えることが必要だろうと思う。もう少し上の学年なら、引用文の書き方も丁寧に指導していかなければならないことである。著作権、情報モラルにも関わることなので、指導する側の意識も高めなくてはと感じた。